



2018年度は、溶連菌、インフルエンザ、麻疹、風疹等、大流行しました。当大学でも、感染者がたくさん出ました。春になってもまだインフルエンザの感染は続いています。

大流行の原因は、感染予防の甘さです。人ごみを避ける、手洗い、うがいをする、発熱、咳、くしゃみ症状等でのマスクエチケット、ワクチン接種をし、罹らないようにする、自己の免疫を上げる等、個々で予防できる事をし、感染を増やさないようにしましょう。



## <感染症について>

ウイルス、細菌等の病原体が、体内に入ると、増殖し、発熱、咳、下痢等の症状がでます。

感染には、**空気感染**、**飛沫感染**、**接触感染**等があります。

**空気感染**(空中を浮遊した飛沫核を吸入すること)には、結核、麻疹(はしか)、水痘(みずぼうそう)、

**飛沫感染**(感染している人が咳やくしゃみで放出した微生物が口腔、鼻、結膜の粘膜に付着すること)

には、風疹、インフルエンザ、流行性耳下腺炎、百日咳、マイコプラズマ肺炎、

**接触感染**(微生物に汚染されたものを触る、感染者から微生物を直接接触)は、梅毒、淋病、ロタウイルスノロウイルス、疥癬、流行性角結膜炎などがあり、感染の可能性は、私たちの身近にあります。



## <感染したら>

学校保健安全法にさだめる感染症(表)と診断された場合、同法に基づき、感染拡大を防ぐため、登校せずに休養としています。大学(保健室)では、感染症治癒証明、登校許可書などの提出の義務はありませんが、必ず、医師の登校許可をもらってから、登校するようにしてください。授業、試験などの配慮等は、教務課に直接、お問い合わせください。



## ＜学校保健安全法に定める学校感染症＞表

分類	病名	出欠停止の期間
第1種	エボラ出血熱、クリミア、コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MARSコロナウイルス）特定鳥インフルエンザ	・完全に治癒するまで
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）	・発症後5日、かつ解熱後2日経過するまで
	百日咳	・特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治癒が終了するまで
	麻疹（はしか）	・解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	・耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が始まった後5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
	風しん	・発疹が消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	・全ての発疹が痂皮化（かさぶた）するまで
	咽頭結膜熱	・主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	・学校医、その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ	・医師が感染のおそれがないと認めるまで
	細菌性赤痢	
	腸管出血性大腸菌感染症	
	腸チフス	
	パラチフス	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	



## ＜感染症対策として＞

- ★食品などの加熱殺菌（85～90℃で90秒以上）し、汚物も洗浄消毒をし、感染源の除去に努める
- ★感染経路を断つため、正しい手洗い、マスクエチケットに努める
- ★自分の免疫力を高めるため、普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事、適度な運動に努める

以上のように、感染をもらわない、広げないために、日頃から予防対策に

心がけましょう